

「心房細動」は比較的起りやすい不整脈で、加齢に伴い増加し、日本国内に潜在的な人も含め100万人以上の患者さんがいると言われています。心房細動では、心房が数多くの不規則な電気の空回り(過)を起こし、結果的に脈が乱れるようになります。最初は発作が時々起こる発作性(一過性)

「心房細動が発症した場合の治療法としては①脳梗塞予防のために血液をサラサラにする薬を服用する(抗凝固療法)②症状を改善し心不全を予防するため③心不全を正常の規則正しいリズムに戻すか心拍数を調節する(減らす)④①と③④が中心となります。②については、従来は薬物療法と電気ショック(電気的除細動)しかありませんでしたが、これら是对症療法で心房細動を根治させるものではないため、心房細動の進行を止めることはなかなか出来ませんでした。



健康 七 四国

徳島大病院循環器内科 添木 武 講師

心房細動に注目の根治療法 心筋焼灼術

そのようななかで、根治療法として最近注目を集めているのがカテテル・アブレーション(心筋焼灼術)です。徳島大学病院循環器内科では、症状が強くなると薬物によるコントロールが困難な患者さんを中心にこの治療法を行っています。ただ、カテテル治療はごくまれに脳や心臓に関連する合併症の危険性もありますので、まずはかかりつけの先生と相談し、必要であれば当院へ紹介して頂いてください。

心房細動はすぐに命に関わるような不整脈ではありませんが、放っておくと危険な状況を引き起こすことがあります。一つは、心房が癒えるためその中の血液がよごんでしまい血液の塊(血栓)が出来やすくなることです。この血栓が血液の流れに乗って脳の血管を閉塞させると脳梗塞になります。実際、心房細動をそのまま放置した場合、年間に約5%の患者さんが脳梗塞になることが知られてい